

都立特別支援学校の生徒が 「キャリアメンタリング・プログラム」に参加

ゴールドマン・サックスの社会貢献活動と 連携した自立支援プログラム

◆自立することへのプラスイメージを

6月10日(木)、六本木ヒルズにあるゴールドマン・サックスで「キャリアメンタリング・プログラム」という自立支援プログラムが行われました。今年で3回目を迎えるこのプログラムは就職や進学をめざす生徒が社会に出ること、そして自立することに対してプラスのイメージを持てるように支援することを目的に、ゴールドマン・サックスがCSR活動の一環として実施しているものです。

この日は、都立村山特別支援学校、都立あきる野学園、都立青峰学園の3校の高等部で、進学や就職をめざしている8名の生徒が参加しました。様々な部署で活躍されている10名の社員の方に御協力いただき、47階にある会議室でプログラムが行われました。社員の方とのディスカッションや1対1の面接練習などを通じ、就職や進学の際に必要なコミュニケーション力や自己アピール力の獲得をめざします。

◆主なプログラム

○自己紹介

生徒も社員の方も先生も自己紹介します。

○グループディスカッション

4つのグループに分かれて社員の方はもちろん先生も参加するディスカッションです。「緊張しないで話す」「人の話を聞く」「そしてまた自分も話す」という自由なコミュニケーションをすることが目的です。

○オフィスツアー

いくつものパソコンが設置してある机が数百も並んでいるオフィスを見学します。

○グループごとにランチ

○アピールカードの作成

進学や就職で使う生徒自身の得意科目や自分の長所などを記入したアピールカードを社員の方と直接対話しながら見直し、よりアピールできるものに仕上げる、というプログラムです。

○模擬面接

社員の方が面接担当になって入室、面接、退室までを実際にやってみます。生徒はアピールカード作成の成果を踏まえて模擬面接に臨みます。



全体会で社員の方と生徒が全員で自己紹介

◆ホンモノを見てあこがれを持つことが大切

最後は全体でフィードバックセッションを行います。全員の生徒が何を学んだのかを話して、担当の社員の方がコメントをします。全員の経験を共有することが目的です。

生徒からは「模擬面接はすごく不安だったけどやってみたら出来たので自信が持てた。」「参加は2回目、去年よりもたくさんアドバイスをいただけた」「模擬面接では初めて相手の目を見て話すことができた。」といった発言がありました。

社員の方からは、「やりたいことや伝えたいことをしっかり考えるから自信をもって面接に臨める」「面接には相手を知つてやろうというつもりで向かっていくこと」「体験したことを話すときには、自分にとってどうだったかを付け加えてみるとよい」「長所をアピールするときには具体的に話せるようにしておくこと」といったコメントがありました。

豊富なキャリアを持つ社員の方が、御自身の経験に基づき、具体的なアドバイスをするというプログラムによって、生徒が自分自身の強みに気がつき、そして自信を持つようになっていることがわかります。都立青峰学園の小田部恵教諭は「実際のオフィスで働いていらっしゃる社員の方と直に接することによって、『あこがれ』を抱くことが、就労してからの困難を乗り越える大きな力の一つになると思います。」と話します。



生徒が作ってきた自己アピールカードを社員の方と見直す

◆コミュニティ・チームワークス(CTW)～社員参加のボランティア推進プログラム

吉田亜砂子さん、麻崎久美子さん(ゴールドマン・サックス証券株式会社 コーポレート・エンゲージメント)

ゴールドマン・サックスは社会貢献活動の一つとして、社員参加のボランティア推進プログラムであるコミュニティ・チームワークス(CTW)に取り組んでいます。CTWは世界中のオフィスで毎年4月から8月に一斉に行われ、今年、東京では「こども/青少年」「教育」「国際協力」「難民」「医療」「高齢者」「困難を抱えた女性」など14分野173の社会貢献活動を社員に提供し、約1200名の社員がそれぞれ興味のあるボランティア活動を選択し参加しました。私たちはゴールドマン・サックスの社員らしいユニークな貢献活動をめざしています。今回の取組も、社員のビジネススキルや経験を活かして、就職や進学を控えた生徒さんの支援を目指しています。このプログラムは特別支援学校の他、児童養護施設でも実施しており、今後、もっと広げていきたいと考えています。

*ゴールドマン・サックス証券株式会社の社会貢献活動は次のホームページで御覧になれます。

<http://www2.goldmansachs.com/japan/citizenship/index.html>